

タチシノブ *Onychium japonicum* (Thunb.) Kunze

イノモトソウ科 Pteridaceae

1. 利用可能部位：葉柄

2. 組織形態：

葉柄断面は上面の左右に耳状の稜が張り出し、全体として四角状である。表皮は平滑。下表皮は下面ではやや発達するが側面、上面ではあまり発達しないので全体としてはやや柔らかい。耳状の稜の下側に通気孔条があるが目立たない。中央に1本の維管束があり、断面盃型で木部の両端が内側に巻き込んでいる。

3. 利用例：知られていない

4. 遺跡出土遺物：知られていない

図の説明

A: タチシノブの葉柄の断面。上面左右に耳状の稜があり、中央はへこむ。表皮-下表皮は下面でやや発達するが側面、上面では未発達である。葉柄中央に上に開いた杯状の維管束が1本ある。矢印は通気孔条のある位置。

B: 葉柄の断面の拡大（一部）。上面、側面では表皮細胞は木化しているが下表皮はリグニンの沈着は見られない。矢印部分に通気孔条に相当する細胞間隙の発達した部分があるがほとんど目立たない。

